

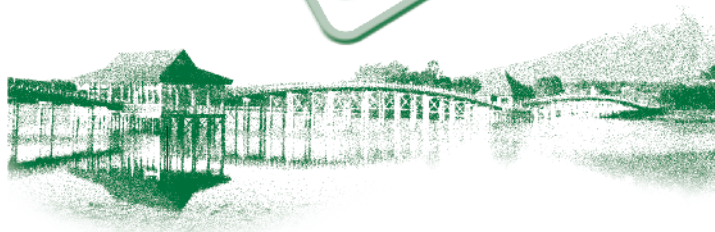
門出を祝い一足早く成人式

1月3日（水）、鶴田町の成人式が県内トップを切って町国際交流会館で開催されました。あでやかな振り袖やはかま、スーツ姿の新成人93人が出席し、人生の新たな門出を同級生や家族らと共に祝いました。

相川町長は「これから先、辛いこともあるかもしれないが、多くの人たちに支えられていることを忘れず、夢や志をあきらめないで」とエールを送ると、新成人を代表して北谷優典さんと藤田英里香さんが「若者らしい情熱と行動力で期待に応えられるよう頑張りたい」と謝辞を述べました。式典後の「成人のつどい」では、恩師からのメッセージや小中学校時代の写真が紹介され、新成人たちは同級生と当時を懐かしんでいました。



△新たな門出を祝い、りんごジュースで乾杯する新成人



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

りんご生産者が剪定技術学ぶ

県りんご協会では1月5日（金）、新春の剪定大会を富士見湖パーク周辺の園地で開催し、津軽地域から参加した生産者約1000人が高品質りんごの生産に向けた剪定技術を学びました。

大会は、りんごの品質と収量の向上を目指して開催されており、当町での開催は3回目。普通樹では成田文一さん（瀬良沢支会）、出町潤逸さん（間山支会）ら4人、わい化樹では田澤明裕さん（野木支会）ら3人が講師を務め、ノコギリやハサミを使って剪定を実演しました。

講師たちは「次の年の予備枝は切らないほうが良い」「花芽がつくことを考えて剪定して」などと参加者に剪定のポイントを説明しました。



△参加した生産者に剪定のポイントを説明する講師（右）

地域防災を担う決意を新たに

1月7日（日）、鶴田町消防団（下山正彦団長）が新年の出初め式を丹頂大通りで開催し、今年1年の無火災と無災害を願いました。

出初め式には消防団員や婦人防火クラブ員ら約300人が参加。分団ごとに大通りに整列し、観閲者の相川町長から服装や姿勢の点検を受けた後、まとい振りや分列行進を行い、消防人として地域住民の生命と財産を守る決意を新たにしました。

町国際交流会館で執り行われた式典では、大性分団ら3分団へ鶴田町長表彰が、胡桃館境分団の須郷寛世部長ら8人に町消防団長表彰が贈られ、相川町長は「新しい1年が災害のない平穏な年になってほしい」と式辞を述べました。



△雪が降る中に行われた勇壮なまとい振り



△全国大会での健闘を誓った鶴田クラブのメンバー

女子ミニバス全国大会出場へ

第49回全国ミニバスケットボール大会（3月28日（水）～30日（金）、群馬県高崎市）に出場する鶴田クラブ女子が1月11日（木）、町役場に相川町長を訪ね、大会での健闘を誓いました。

1月上旬に行われた県予選会は、固いディフェンスと多彩な攻撃で勝ち進み、決勝戦では44対35で造道小学校に勝利。第22回大会の男子以来、女子では初の全国大会出場を決めました。

報告会でメンバーは「鶴田クラブのプレーをしっかりとやってきたい」「ディフェンスもオフェンスもしっかりやって勝ちたい」と意気込みを語りました。相川町長は「上位を目指し、6年生最後の大会を頑張ってきて」とエールを送りました。

がんの知識と理解を深める

1月29日（月）、健康長寿アップセミナーが町国際交流会館で開催されました。「がんという病気を知ろう」のテーマで青森県立中央病院の小野正人医師が講演し、参加した町民約120人ががんに関する知識と理解を深めていました。

小野医師は青森県のがんの特徴は発見が遅いことであるとし、がんで亡くならないための対策として、たばこや飲酒などの生活習慣に気をつけることや早期発見・早期治療の重要性を説明しました。さらに、「がんの症状について勉強したり、検診を受けるなど、がんを意識することが大切。手遅れになると大変なので、何か症状に気付いたら精密検査を受けてみて」と呼び掛けていました。



△がんにかかる原因や予防法について講演する小野医師